

21 世紀にアルテクスが提唱する (SPS) 接合論とは



SPS/SoundPower for Space 接合論

宇宙エネルギーの地球大気中における確認方法の一つが [音による接合] であり、利用手段としては環境のためにも重要な工法、との考え方。

SoundPower の接合が更に新たな Space を創出する。繰り返される創出が宇宙現象そのもの。

アルテクスは会社設立以来、常に未来を志向し技術の進化のために、音エネルギーによる [金属接合技術] をメインとした R & D ラボラトリービジネスに専念してまいりました。

その長年にわたる研究成果は、金属接合の基礎技術としての (SoundPower for Space) 接合論の完成です。具体的には宇宙空間で金属が結合する接合は、アナログ現象でありデジタルではありません。

従って音エネルギーを伝える加圧方法の選択肢は、アナログでは [エアー] です。

そのアナログの反応スピードとフレキシブル性が、接合中に起きる物理現象を微妙に追尾します。接合パーツは一定のスピードでは変位しません。発生する音エネルギーを接合するパーツに伝える役目のエアーが、加圧し過ぎても足りなくても接合レイヤ (パーツとパーツ間の接合したい層) にはエネルギーを固定できません。常に接合プロセスでは加圧力に精密さ (±0) が求められます。追尾できるアルテクスの「精密エアーシリンダ加圧法」のみが解決策です。

アルテクスの実績に示される様に、SPS 接合論で音エネルギーの利用技術の完成度が飛躍的に向上できました。これからは 20 世紀にスタートした [超音波 /Ultrasonic] 技術を、21 世紀には [音波 /Sound] まで領域を拡げることで、今後増々 "ものづくり" のために不可欠な真の基礎技術としての、この新しいメジャーな工法を普及させます。

そして常に理論の裏付けを基に、工場の量産不良率 (ゼロ) と、生産コストを限りなく (ゼロ) に近づけるイノベーション技術を更に進化させ音エネルギーの歴史を創り世界をリードします。